異なる意見に心を開く
～「多様性の科学」に学ぶ～

ご入学、ご進級、おめでとうございます。

皆さんはどのような気持ちで新年度を迎えられたでしょうか。

新たな学友と接するのは楽しみでもあり、不安でもあると思います。SNSの発展により、現在では卒業で離ればなれになったとしても気軽に連絡を取ることができます。気心の知れた旧友との交友は楽しいものではありますが、新しい環境は心の中に無意識のうちに刷り込まれている偏見や固定概念に気づき、多様性の重要性を確認する機会だともいえます。

多様性という言葉は、外来語のダイバーシティー（Diversity）と共にしばしば耳にするようになりました。多様性は性自認や宗教等における少数者の尊重といった倫理的な側面が強調されがちですが、実はイノベーションを引き起こすためにも欠かすことができません。最近感銘を受けた図書「多様性の科学」を皆さんに紹介したいと思います。

「多様性の科学」には先入観のために生じた失敗例が多数紹介されています。例えば、今では誰もが使っている車輪付きのスーツケースですが、これが発明されたのは1958年です。発明者は自信満々で試作品をスーツケースの会社に持ち込んだところ、会長から「誰が車輪付きのスーツケースなんて欲しがるかね」と一笑に付されます。現在の我々から見ればこの会長はもったいないことをした、と感じますが、果たして新しいアイディアを受け入れることできるでしょうか？

イノベーションは主に二種類に分けられるそうです。一つは特定の方向に向かって一歩ずつ前進していくタイプで漸進的イノベーションと呼ばれます。もう一方はそれまでに関係のなかった異分野のアイディアを融合するイノベーションです。車輪付きのスーツケースはまさに融合のイノベーションですね。問題は、融合のイノベーションを見過ごしてしまうのはなぜか、また、その価値に気付くにはどのようにすればよいか、ということでしょう。その解は「自分とは異なる人々と接し、馴染みのない考え方や行動に触れる価値」、端的にいうと多様性の価値を理解することだと著者は説きます。

新型コロナにより、遠隔授業やオンライン教材で好きな時に好きなだけ学ぶことができるようになってきました。特定のスキルを身に付けるためには良いことでしょうが、それだけでは融合のイノベーションを見逃してしまうかもしれません。無意識の先入観にとらわれないためにも、新たな学友と心を開いて接してみてはいかがでしょうか。勉強ができることよりも社交的である方が、イノベーションを引き起こす可能性が高いそうです。

（久留米工業高等専門学校　黒木祥光）

Copyright © 2022 The Institute of Electronics, Information and Communication Engineers